

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 21日

協議会名: 羽島市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
岐阜羽島バス・タクシー株式会社	東・はしまわる線	<p>・高齢者の運転免許証自主返納者への特典付与、高校生のバス通学定期購入補助事業、乗継割引を継続して実施した。</p> <p>・コロナ禍であってもできるものとして、岐阜羽島駅のバス停の「のりば番号」の設定、「GTFS-JP」の整備、「地域別マップ」の作成、新庁舎への乗り入れ、南部線の最終バス繰り下げ、公共交通利用ガイドの発行を実施した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数 【目標】7,050人 【実績】6,669人 昨年度より感染症拡大による外出自粛による利用者数の低迷が続いており、利用の多くを占める市民病院、特別支援学校等の乗降者数が回復しきらず、目標が達成できなかった。	<p>・換気や消毒等の様々な感染予防対策を実施していることをPRし、公共交通の利用に対する不安を払拭させ、羽島温泉等への利用促進を図る。</p> <p>・中学生や高校生に対するPRや高校生通学定期券補助の継続により、バスを利用した高校通学の促進を図る。</p> <p>・改善策の一つとして「のりば番号」を設置した。引き続き、交通事業者等の関係者との協議を行い、調整できたものから順次実施していく。</p>
	西・はしまわる線		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数 【目標】7,280人 【実績】5,406人 昨年度より感染症拡大による外出自粛による利用者数の低迷が続いており、利用の多くを占める市民病院等の乗降者数が回復しきらず、目標が達成できなかった。	
	中・はしまわる線		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数 【目標】13,660人 【実績】10,767人 昨年度より感染症拡大による外出自粛による利用者数の低迷が続いており、利用の多くを占める市民病院、羽島温泉等の乗降者数が回復しきらず、目標が達成できなかった。パロー羽島インター店の乗降者数は一昨年度の水準まで増加しており、買い物での利用は概ね回復している。	
	温泉・はしまわる線		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 年間利用者数 【目標】16,020人 【実績】11,077人 昨年度より感染症拡大による外出自粛による利用者数の低迷が続いており、利用の多くを占める市民病院、羽島温泉等の乗降者数が回復しきらず、目標が達成できなかった。パロー羽島インター店の乗降者数は一昨年度の水準まで増加しており、買い物での利用は概ね回復している。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 4年 1月 21日

協議会名:	羽島市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>羽島市は、市の中央部に県内唯一の新幹線駅である岐阜羽島駅を有し、「岐阜県の玄関口」としての役割を担っている。また市内には、岐阜羽島駅を交通結節点として、広域的には名鉄竹鼻線・羽島線、名阪近鉄バス羽島線や海津市及び輪之内町のコミュニティバスが、地域内では羽島市コミュニティバスが運行されている。</p> <p>高齢化の進展に伴い、都市間移動や日常生活の足として、商業施設・医療施設・公共施設等へのアクセスの確保が一層重要となるため、公共交通の確保・維持に対する取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>[羽島市地域公共交通網形成計画の目標] 『人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう地域公共交通体系の構築』</p> <p>[同計画の期間] 令和2年度～6年度</p> <p>[基本方針]</p> <ol style="list-style-type: none">① 地域の日常生活を支える公共交通サービスの確保② まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成③ わかりやすく誰もが利用しやすい環境の整備④ 多様な主体との連携による交通まちづくりの推進